

©2019 JAPAN FITNESS ASSOCIATION

2020年度『GFI資格』養成校研修会

世界のフィットネストrendと 日本のフィットネス、注目の3分野

株式会社クラブビジネスジャパン
月刊ネクスト編集長 岩井智子

※本資料に掲載の写真・文章の無断転載を禁じます

©2019 JAPAN FITNESS ASSOCIATION

世界のフィットネストrendと 日本のフィットネス、注目の3分野

- PART 1 世界のフィットネス業界trend
- PART 2 DACHクラブ特有のtrend
- PART 3 ボディコンテストの世界的潮流
- PART 4 日本のフィットネス注目の3分野

©2019 JAPAN FITNESS ASSOCIATION

自己紹介

- 高校時代 バレーボール部に所属 トレーナーを目指す
- お茶の水女子大学 文教育学部 舞踊教育学科 運動社会学専攻
 - フィットネスクラブでマシントレーナーに
 - エアロビクス養成コースを経て
 - JAF認定を取得！インストラクターに
- 銀行の総合職で営業職
- フィットネスクラブ運営企業で営業職
- マシンメーカー企業企画部で編集職
- 株式会社クラブビジネスジャパン起業
 - 『フィットネスビジネス』編集部
 - 『月刊ネクスト』創刊 編集長
 - フィットネスジョブ、フィットネス市場など



©2019 JAPAN FITNESS ASSOCIATION

自己紹介

株式会社クラブビジネスジャパン

紙メディア



Webメディア

FITNESS ONLINE

Fitness Business

Fitness Job

F **フィットネス市場**
Fitness Ichiba

リアルイベント



2020年度の就活を成功させよう！
**フィットネス・スポーツ業界
合同リクルートフェア2020**
▶入場無料 ▶入場券自由 ▶種別費不要 ▶面接自由

その他、各種セミナー
海外視察ツアーなど

©2019 JAPAN FITNESS ASSOCIATION

世界のフィットネス業界トレンド

©2019 JAPAN FITNESS ASSOCIATION

世界のフィットネス市場規模

（問 1 ） 国別参加率

第1位		(21%)
第2位	アメリカ	(20%)
第3位	ノルウェー	(19%)
第4位	カナダ	(19%)
第5位	クウェート	(17%)

©2019 JAPAN FITNESS ASSOCIATION

国別参加率

第1位	スウェーデン	(21%)
第2位	アメリカ	(20%)
第3位	ノルウェー	(19%)
第4位	カナダ	(19%)
第5位	クウェート	(17%)

以下、オランダ（17%）、デンマーク（16%）、オーストラリア（15%）、UK（14%）、ニュージーランド（14%）と続く

©2019 JAPAN FITNESS ASSOCIATION

（問2）国別成長率

第1位		(+33%)
第2位	中国	(+30%)
第3位	韓国	(+21%)
第4位	アイルランド	(+14%)
第5位	インドネシア	(+12%)

©2019 JAPAN FITNESS ASSOCIATION

国別成長率

第1位	フィリピン	(+33%)
第2位	中国	(+30%)
第3位	韓国	(+21%)
第4位	アイルランド	(+14%)
第5位	インドネシア	(+12%)

以下、香港 (+11%)、インド (+10%)、UK (+10%)、
シンガポール (+10%)、フィンランド (+8%)

©2019 JAPAN FITNESS ASSOCIATION

(問3) 国別市場規模

第1位		(30,007億円)
第2位	ドイツ	(5,633億円)
第3位	イギリス	(5,508億円)
第4位	中国	(3,944億円)
第5位		(3,943億円)

©2019 JAPAN FITNESS ASSOCIATION

国別市場規模

第1位	アメリカ	(30,007億円)
第2位	ドイツ	(5,633億円)
第3位	イギリス	(5,508億円)
第4位	中国	(3,944億円)
第5位	日本	(3,943億円)

©2019 JAPAN FITNESS ASSOCIATION

日本のフィットネス市場規模

売上高	4,602億円 (+2.9%)
施設数	5,299軒 (+6.9%)
会員数	462万人 (+9.0%)

©2019 JAPAN FITNESS ASSOCIATION

話は戻りますが・・・ 国別参加率

第1位	スウェーデン	(21%)
第2位	アメリカ	(20%)
第3位	ノルウェー	(19%)
第4位	カナダ	(19%)
第5位	クウェート	(17%)

以下、オランダ（17%）、デンマーク（16%）、オーストラリア（15%）、UK（14%）、ニュージーランド（14%）と続く

©2019 JAPAN FITNESS ASSOCIATION

フィットネス参加率世界一 スウェーデンのフィットネス事情

【社会環境】

- ・専業主婦率は2%！
- ・男女ともに67歳くらいまで働く
- ・会社が従業員のフィットネス会費を補助

年間1,500～5,000クローナ（17,000円～58,000円）

- ・物価が高いのに対して、フィットネスクラブ会費が安い

フリスキス&スヴェッティス 年会費42,000円、SATS 月会費6,900円など

- ・フィットネスクラブが学校体育を代行も

→フィットネスのある生活が普通

→仕事の前後にフィットネスクラブに行くのが普通

スウェーデンと日本の違い

	スウェーデン 	日本 
人口	959万人	1億2730万人
一人当たり 名目GDP	5万8491ドル	3万6331ドル
消費税率	25%	8%
国民負担率※1	58.9%	43.4%
平均寿命	81.7歳	83.1歳
高齢化率※2	19.7%	25.1%
子供と 暮らしている 高齢者の率※3	4%	44.1%
出生率(2014)	1.91%	1.42%
専業主婦率	2%	38%

※1 所得に対する税金と社会保障料の割合

※2 65歳以上の人口が全体に占める割合

※3 スウェーデンは67歳以上、日本は65歳以上

©2019 JAPAN FITNESS ASSOCIATION

フィットネス参加率世界一 スウェーデンのフィットネス事情

【業界環境】

- ・非営利団体のフリスキス&スヴェッティスが、広くフィットネスを啓発。
(小学校の授業代行、6～12歳が参加できる「ムーブメントクラス、老若男女が参加する、公園での無料レッスン)
- ・ストックホルム市の中心地（オフィス街）に17クラブあり、朝5時～夜12時までオープン
- ・年会費3590クローナ（約42,000円）で、会社の補助金で通える金額。
- ・仕事の前後にフィットネスクラブに行くことは、一般的なライフスタイルになっている。成人になると、それぞれの志向に合わせたクラブを選ぶようになる。

©2019 JAPAN FITNESS ASSOCIATION

フィットネス参加率世界一 スウェーデンのフィットネス事情

【主なプレイヤー】

フリスキス&スヴェッティス

(元気な人たち、汗をかく人たちの意味)

- ・1978年に創業したストックホルム市の非営利団体。
- ・ストックホルム市に17クラブある。朝5時～夜12時までオープン
- ・年会費3590クローナ（約42,000円）（3時まで使える会員の場合、年2,590クローナ）
- ・アイトルタイムに学校の授業を代行。6～12歳が参加できる「ムーブメントクラス」もある。

SATS

(ストックホルムエリアに20クラブ以上ある民間クラブ最大手)

- ・1994年にノルウェーでスタート。
- ・現在、ノルウェー、スウェーデン、フィンランド、デンマークに展開。
- ・月会費 1店舗会員595クローナ（6,900円）、共通利用会員605クローナ
- * 年間契約しないと月あたり100クローナ高くなる。

スウェーデン中心地だけで5クラブあり、それぞれのクラブが違うコンセプトとアイテムで、共通利用を楽しめるようにしている。入会するとパーソナルトレーニング1セッション無料。

©2019 JAPAN FITNESS ASSOCIATION

フィットネス参加率世界一 スウェーデンのフィットネス事情

【主なプレイヤー】

ストウーレバーデット

高級総合フィットネスクラブ

年会費 約200,000円

夏の間は2995クローナ（約35,000円）で利用できる

Barry's Bootcamp

1998年米国生まれのHIITブティック

1レッスン 2,400円～

【その他のプレイヤー】

メトロポリスクラブ

年会費 890クローナ（10,000円）

Actic

月会費 399クローナ（4,600円）

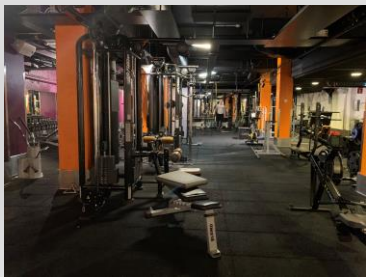
frisks&svettis



©2019 JAPAN FITNESS ASSOCIATION

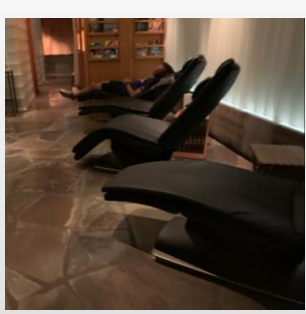
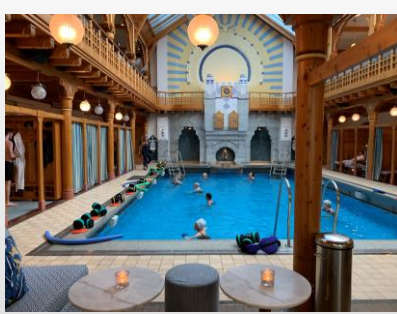
SATS

©2019 JAPAN FITNESS ASSOCIATION



ストウレバーデット

©2019 JAPAN FITNESS ASSOCIATION



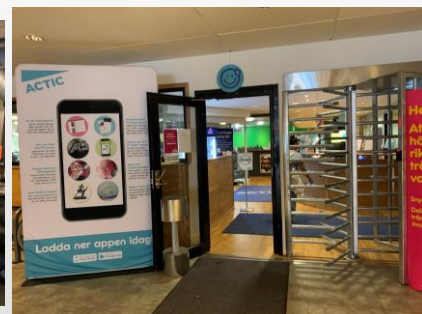
Barry's Bootcamp

©2019 JAPAN FITNESS ASSOCIATION



メトロポリスクラブ、ACTIC、その他

©2019 JAPAN FITNESS ASSOCIATION



世界のフィットネストrend

米国フィットネストrend 2019 Top Fitness Trends of 2019 (ACSM)

ACSM（アメリカスポーツ医学会）は、世界90カ国以上で5万人以上の会員を有し、ヘルスフィットネスやスポーツ医学の資格を認定するなど、世界的に認知されている組織です。

世界のフィットネストrend

Top Fitness Trends of 2019 (ACSM)

1. ウェラブルテクノロジー
2. グループトレーニング
3. HIIT
4. 高齢者のフィットネスプログラム
5. 自重トレーニング
6. 資格を持つトレーナーの雇用
7. ヨガ
8. パーソナルトレーニング
9. ファンクショナルフィットネストレーニング
10. 運動療法

©2019 JAPAN FITNESS ASSOCIATION

世界のフィットネストレンド

Top Fitness Trends of 2019 (ACSM)

11. 健康／ウェルネスコーチング
12. 減量のためのエクササイズ
13. モバイルエクササイズアプリ
14. モビリティ／筋膜デバイス
15. 企業のヘルスプロモーションと、
職場のウェルビーイングプログラム
16. 効果測定
17. アウトドアアクティビティ
18. トレーナーの資格団体
19. スモールグループトレーニング
20. ポストリハビリクラス

©2019 JAPAN FITNESS ASSOCIATION

世界のフィットネストレンド

Top Fitness Trends of 2019 (ACSM)

1. ウェラブルテクノロジー
4. 高齢者のフィットネスプログラム
9. ファンクショナルフィットネストレーニング
10. 運動療法
11. 健康／ウェルネスコーチング
13. モバイルエクササイズアプリ
14. モビリティ／筋膜デバイス
15. 企業のヘルスプロモーションと、
職場のウェルビーイングプログラム
16. 効果測定
20. ポストリハビリクラス

集約すると・・・

- ・ヘルスケアテクノロジーの進化
- ・ファンクショナルトレーニングの浸透
- ・運動療法としてのフィットネス

©2019 JAPAN FITNESS ASSOCIATION

世界のフィットネストレンド

1. ヘルスケアテクノロジーの進化

→評価、履歴、成果のデジタルデータ化



©2019 JAPAN FITNESS ASSOCIATION

世界のフィットネストレンド

2. ファンクショナルトレーニングの浸透

→ボディメイク以外の、フィットネスやトレーニングの価値



©2019 JAPAN FITNESS ASSOCIATION

世界のフィットネストレンド

3. 運動療法としてのフィットネス

→リハビリや予防医療として。保険適用にも



グループプログラムの世界的潮流

1. フュージョン化
2. プレコリオの進化
3. クラブ内ブティック
4. ハイブリッドトレーナー
5. ICTの活用

©2019 JAPAN FITNESS ASSOCIATION

©2019 JAPAN FITNESS ASSOCIATION

1. フュージョン化

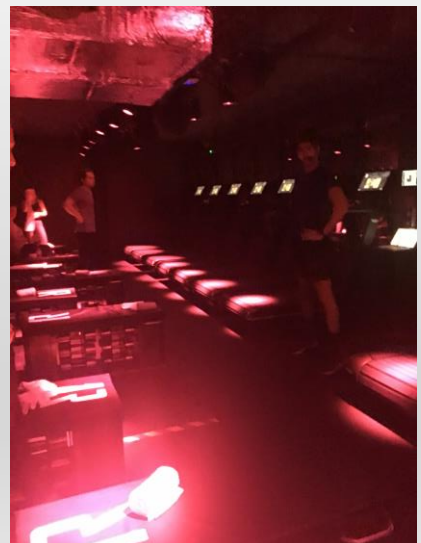
注目ギア・プログラムの複合やプログラムのフュージョン化で、相乗的に人気が集まる。

ex.

- ・HIIT系グループエクササイズで各種ギアのお試し
- ・ブティックスタジオの複合アイテム化
- ・人気プログラム・ギアのフュージョン

©2019 JAPAN FITNESS ASSOCIATION

HIIT系グループエクササイズで各種ギアのお試し



©2019 JAPAN FITNESS ASSOCIATION

ブティックスタジオの複合アイテム化



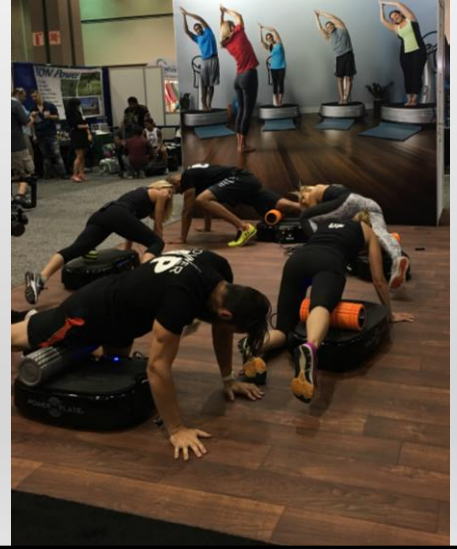
©2019 JAPAN FITNESS ASSOCIATION

ブティックスタジオの複合アイテム化



©2019 JAPAN FITNESS ASSOCIATION

人気プログラム・ギアのフュージョン



©2019 JAPAN FITNESS ASSOCIATION

IDEA2018で見られた究極のフュージョンプログラム



©2019 JAPAN FITNESS ASSOCIATION

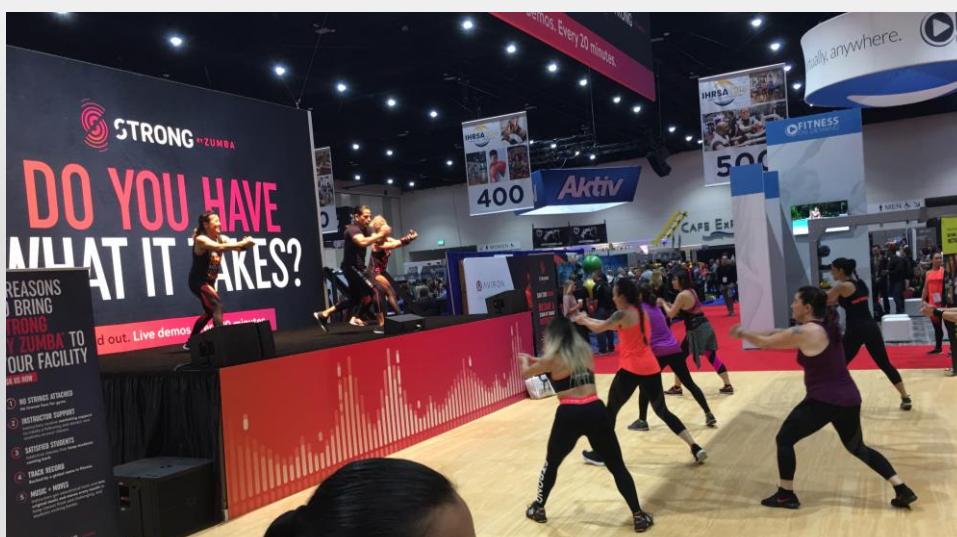
2. プレコリオの進化

プレコリオプログラムとシグネチャープログラムで高品質なプログラムが多様化

- ・レスミルズ、MOSSA、ラディカルフィットネスなど大手プレコリオ配信会社がトレンドに合わせて開発
- ・イクイノックス、ヴァージンアクティブなどブランド力の強い運営企業が独自のシグネチャープログラムを開発

©2019 JAPAN FITNESS ASSOCIATION

大手プレコリオ配信企業の最新プログラム



©2019 JAPAN FITNESS ASSOCIATION

イクイノックスのシグネチャープログラム



©2019 JAPAN FITNESS ASSOCIATION

ヴァージンアクティブのシグネチャープログラム



©2019 JAPAN FITNESS ASSOCIATION

ヴァージンアクティブのシグネチャープログラム



©2019 JAPAN FITNESS ASSOCIATION

3. クラブ内ブティック

総合クラブもグループエクササイズエリアをブティック化

- ・暗闇スタジオを導入する総合クラブも多数
- ・HIIT系グループ専用エリアを導入するクラブも多数

(日本では)

- ・ホットスタジオをブティック化
- ・サイクルスタジオにICTを導入してブティック化

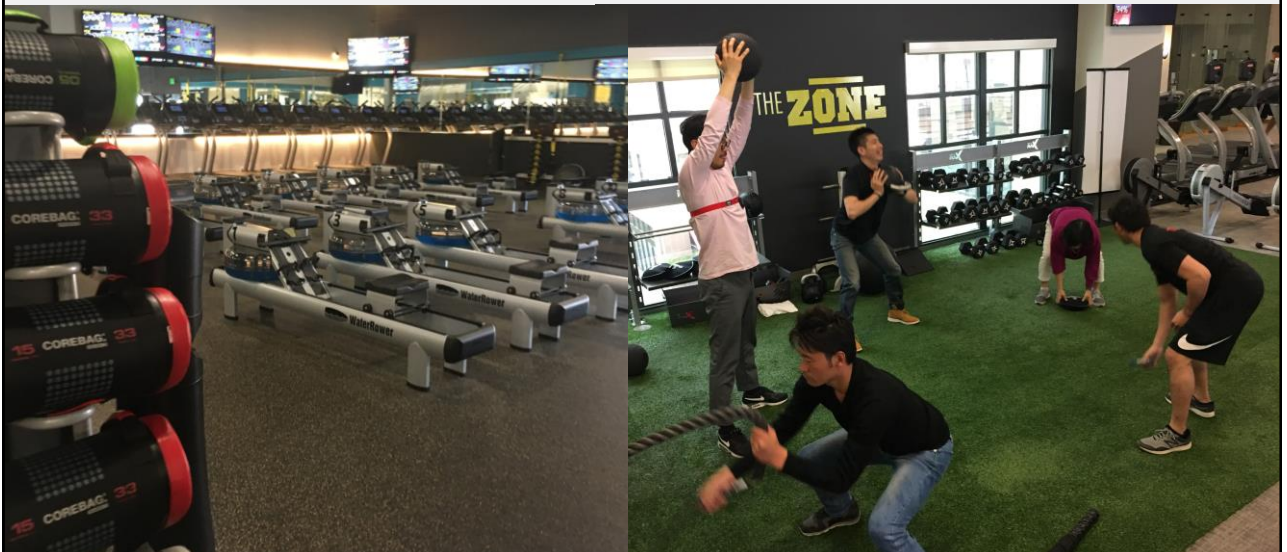
©2019 JAPAN FITNESS ASSOCIATION

暗闇ボクシングを導入する総合クラブも多数



©2019 JAPAN FITNESS ASSOCIATION

HIIT系グループ専用エリアを導入するクラブも多数



©2019 JAPAN FITNESS ASSOCIATION

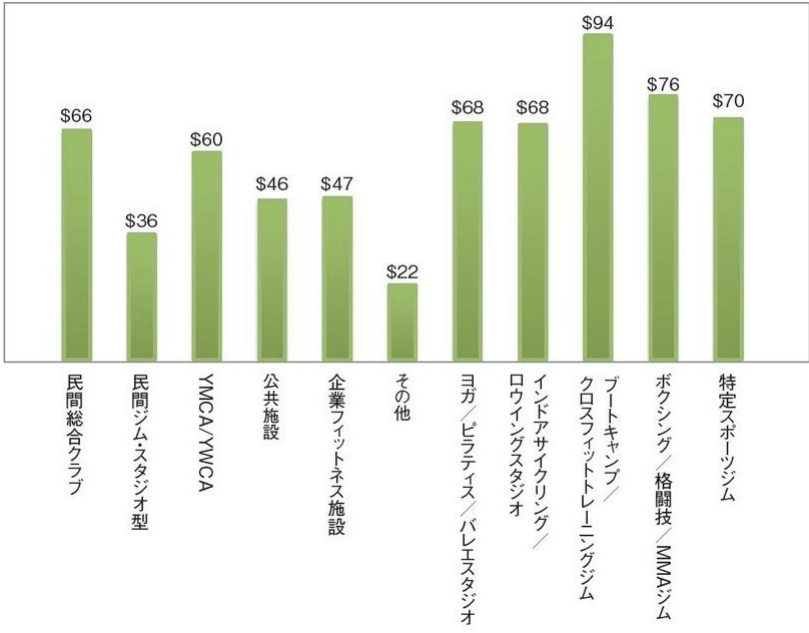
そもそも・・・

総合クラブに対するブティック業態の競争力

	総合クラブ(1,000坪前後)	ブティック業態 (40坪前後)
施設規模	大	小
施設アイテム	多	少
会員数	多	少
客単価	低	高
利益率	低	高

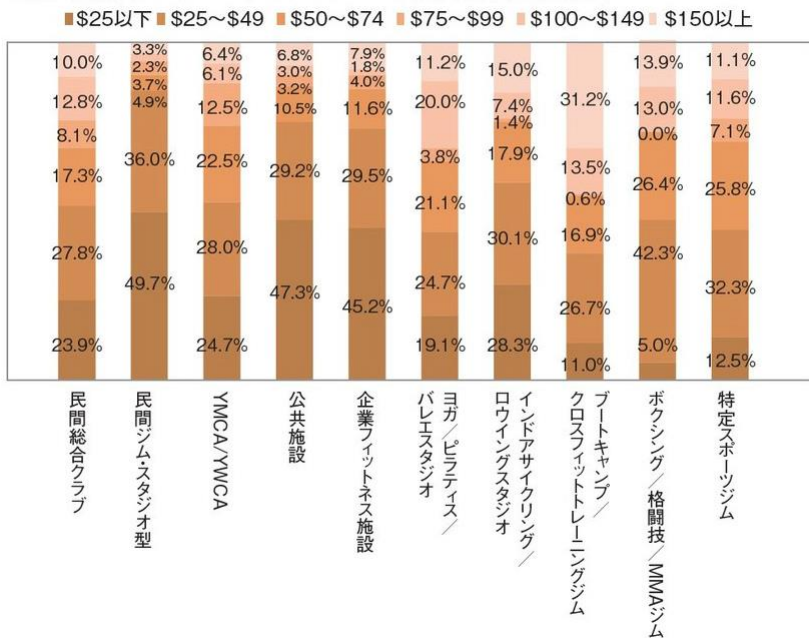
©2019 JAPAN FITNESS ASSOCIATION

図① 業態およびマーケットセグメント別平均月単価 (2013)



©2019 JAPAN FITNESS ASSOCIATION

図② 業態およびマーケットセグメント別月会費設定比率



©2019 JAPAN FITNESS ASSOCIATION

ブティックスタジオの強みとは

強いコンセプトによるブランディング（情緒的価値）

ICTを活用して、

パーソナライゼーション&シンプル・快適なUX

継続参加による機能的価値

©2019 JAPAN FITNESS ASSOCIATION

4. ハイブリッドトレーナー

パーソナル指導者出身のグループ指導者が増え、
グループでもパーソナルな価値を提供

- ・アスリートチーム指導出身トレーナーのグループ指導
- ・パーソナルトレーナー出身トレーナーのグループ指導

©2019 JAPAN FITNESS ASSOCIATION

アスリートチーム指導出身トレーナーのグループ指導



©2019 JAPAN FITNESS ASSOCIATION

パーソナルトレーナー出身トレーナーのグループ指導



©2019 JAPAN FITNESS ASSOCIATION

5. ICTの活用

ICTの進化で、新たな演出と動機付けが可能に

- ・オンライン予約で、事前に参加者のプロフィール把握
- ・オンラインストリーミングレッスンでいつでもどこでも
- ・館内デジタルサイネージを、ウェブページやSNSと連動
- ・運動強度をリアルタイムでモニタに可視化
- ・サーキットラインでリアルタイムに個別フィードバック

©2019 JAPAN FITNESS ASSOCIATION

オンライン予約で、事前に参加者のプロフィール把握

The screenshot displays the 'Another_Space' website interface. The header includes navigation links: 'About', 'Instructors', 'Classes', 'Events & Workshops', 'Timetable', and 'Locations'. The main content area features three pricing tiers for classes:

- STUDIO**: Standard online booking and class management. \$99/mo* (When paid annually or \$114 monthly fee).
- BOULIQUE**: Advanced booking and class management. \$199/mo* (When paid annually or \$239 monthly fee).
- BOULIQUE PLUS**: "Plus" Customer Rewards & Benefits and class booking. \$269/mo* (When paid a \$300 monthly fee).

Below the pricing tiers, there are 'SIGN UP' and 'DEMO' buttons for each tier. To the right, a 'RESERVE' section shows a calendar view for classes, with columns for days of the week and specific class times. A circular diagram with numbered dots (1-48) is also visible, likely representing a class layout or instructor positions.

©2019 JAPAN FITNESS ASSOCIATION

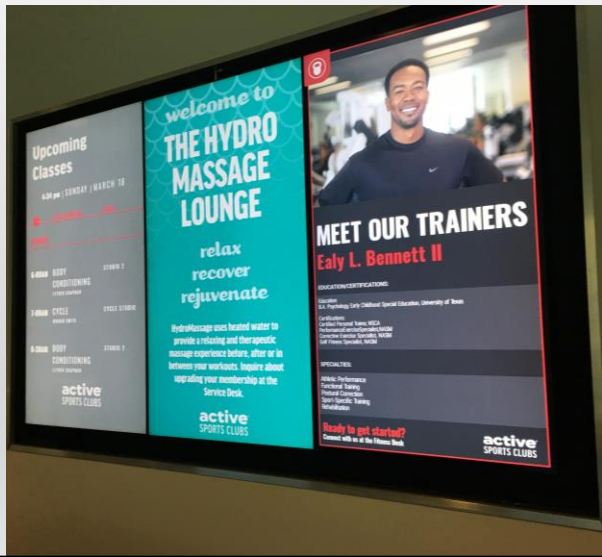
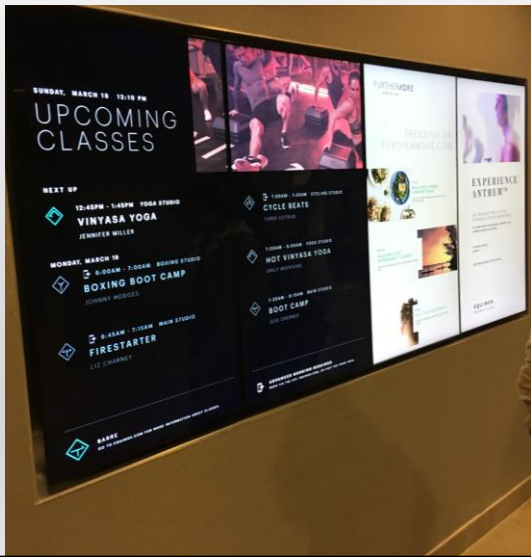
オンラインストリーミングレッスンで、いつでもどこでも

The screenshot shows a fitness app interface. On the left, a hand is pointing at a tablet displaying a grid of class options, including '45 min New Tracks Ride', '45 min Metrics Ride', and '45 min 90s Hip Hop Ride'. The main screen displays a live streaming class with a woman on a stationary bike. The interface includes various metrics and a leaderboard:

- Time**: 12:27 Left
- Heart Rate**: 155 BPM
- Distance**: 118 MILES
- Speed**: 20 MPH
- Cadence**: 72 MPH
- Output**: 245 WATTS
- Resistance**: 28 PERCENT
- Calories**: 1245 BURNED
- Leaderboard**: A list of riders with their names, locations, and total output. Top riders include Susanna (891), Jonathan (732), Rachel (691), Yony (682), Alice (647), Jamie (599), and Yony (682).

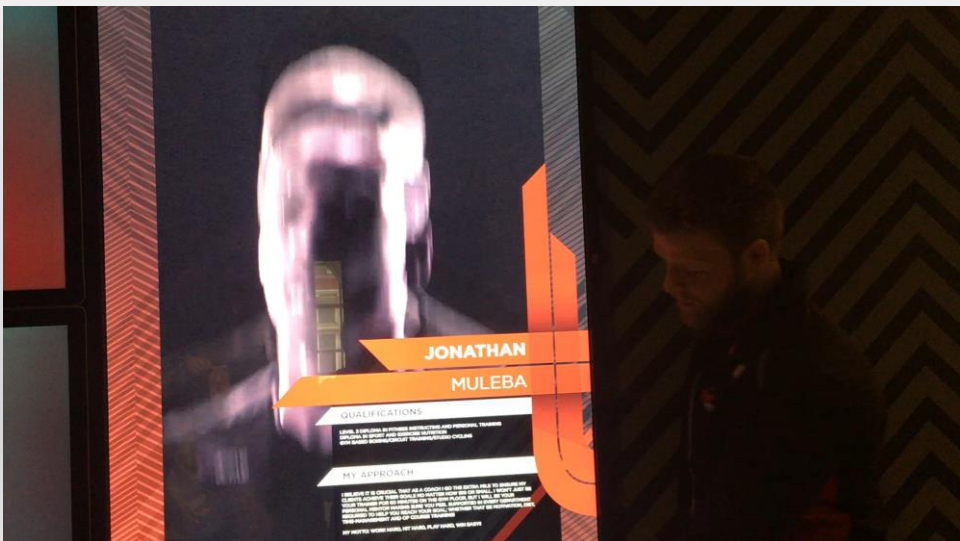
©2019 JAPAN FITNESS ASSOCIATION

館内デジタルサイネージを、ウェブページやSNSと連動



©2019 JAPAN FITNESS ASSOCIATION

館内デジタルサイネージを、ウェブページやSNSと連動



©2019 JAPAN FITNESS ASSOCIATION

運動強度をリアルタイムでモニタに可視化



©2019 JAPAN FITNESS ASSOCIATION

サーキットラインでリアルタイムに個別フィードバック



©2019 JAPAN FITNESS ASSOCIATION

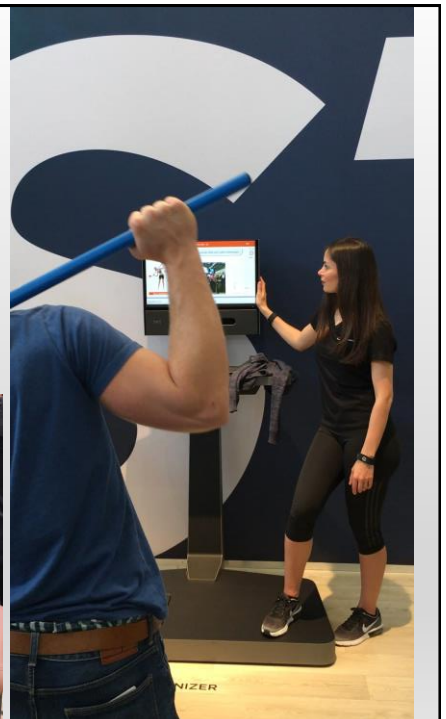
PART 2 DACH特有のフィットネストレンド (ドイツ・オーストリア・スイス)

1. エレクトロニック・サーキット
2. EMS
3. ストレッチング・サーキット
4. ドリンクバー

©2019 JAPAN FITNESS ASSOCIATION

1. エレクトロニック・サーキット

ミロンやイージムなど、
2,500軒以上に導入



©2019 JAPAN FITNESS ASSOCIATION

2. EMS 世界のEMS市場の8割はDACHエリア



©2019 JAPAN FITNESS ASSOCIATION

3. ストレッチング・サーキット

ファイブやフレックスなど、1,500軒ほどに導入



©2019 JAPAN FITNESS ASSOCIATION

おまけ. スプリントトラック

欧州のクラブに、必ずといえるほど入っていたアイテム



©2019 JAPAN FITNESS ASSOCIATION

PART 3 ボディコンテストの世界的潮流

1. フィジーク・フィットネス系コンテスト動向
2. ドイツ系 VS アメリカ系ボディビル動向
3. ミス・ミセス系コンテスト動向

©2019 JAPAN FITNESS ASSOCIATION

1. フィジーク・ビキニ系コンテスト動向

- ・2015年から加盟ジム制がなくなり、個人での参加が可能に
 - ・脚のトレーニングをしなくていい
 - ・丸みのある肩と細いウエストのバランス勝負
 - ・表情、みだしなみ、ステージ上の振る舞いなども審査
- ボディコンテストが「カッコイイ」ものに。
→出場しやすさと、SNSの拡散力で出場者急増へ

©2019 JAPAN FITNESS ASSOCIATION

1. フィジーク・ビキニ系コンテスト動向



- ・ドイツのEMSブームの発祥かも
- ・ハイパーナイフなど美容機器に男性も注目



2. ドイツ系 VS アメリカ系 ボディビル動向

競技志向

IFBB（ドイツ系）

- ・WADA（世界アンチ・ドーピング機構）

日本では

JBBF（日本ボディビル連盟）

- ・JOC加盟団体
- ・JAPA（日本アンチ・ドーピング機構）

エンターテインメント志向

IFBBプロ（アメリカ系）

NPC／WBFF／NICA他

NPCJ

ベストボディジャパン

3. ミス・ミセス系コンテスト動向

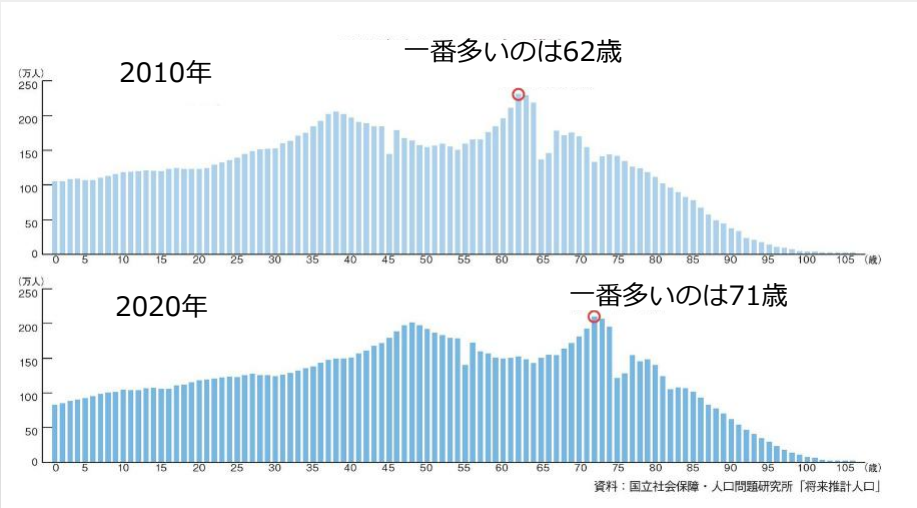
- ・ミスコンテストのほとんどが、出場資格が27才まで
- ・ミセス系コンテストは、既婚28～56才部門、57才以上部門や、未婚28才以上部門も
- ・世界的に美しさの定義が「健康美」に近づいている
- 美しくありたい女性にとって、筋トレの重要性高まる
- ジムトレーニングの目標、発表の場として出場者増へ

©2019 JAPAN FITNESS ASSOCIATION

日本のフィットネス 注目の3分野

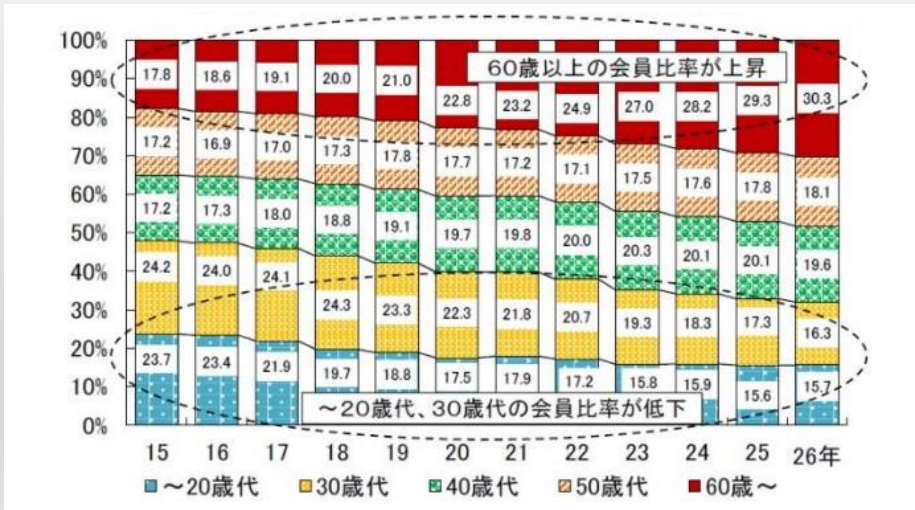
©2019 JAPAN FITNESS ASSOCIATION

日本について知っておくべきこと ---人口動態



©2019 JAPAN FITNESS ASSOCIATION

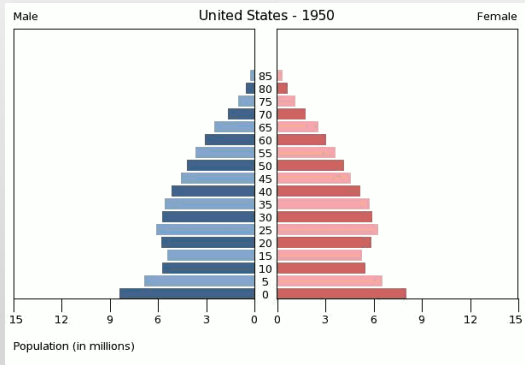
日本のフィットネスクラブの年齢別会員構成比推移



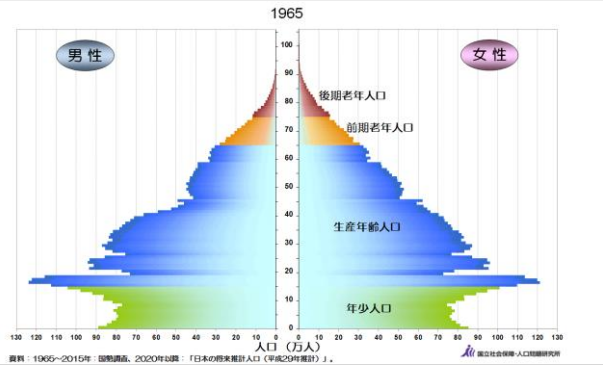
©2019 JAPAN FITNESS ASSOCIATION

日本について知っておくべきこと ---人口動態

アメリカの人口動態



日本の人口動態



©2019 JAPAN FITNESS ASSOCIATION

日本について知っておくべきこと

---人口動態

アメリカの人口動態（2010）

日本の人口動態（2010）

日本（2020）

©2019 JAPAN FITNESS ASSOCIATION

日本について知っておくべきこと

---日本の医療保険システム

OECD各国一人あたりの保険支出（青系は公的、赤系は私的）

税金 社会保険料 自己負担 民間保険 その他

←----- 公的保険が整備されている -----> 自己負担が大きく民間保険が発展しやすい ----->

©2019 JAPAN FITNESS ASSOCIATION

日本について知っておくべきこと

---日本の医療保険システム

	イギリス	日本	ドイツ	オーストラリア	アメリカ
医療保険制度の構造	税金を財源とする公的保険中心（都心部には民間保険あり）	社会保険料を財源の中心とする公的医療中心	社会保険料を財源とする公的保険（高所得者は民間保険との選択制）	税金を財源とする公的保険中心（歯科や眼科、理学療法などは民間保険）	民間保険中心（公的保険は高齢者のメディケイドと低所得者のメディケイド）
プライマリケア	まず指定されたGPで受診	プライマリケアは選任しておらず、GPが少なく、最初から専門医で受診	自由選択できるGPで受診（最初から専門医に行ってもOK）	まずGPで受診（GPは自由選択）	国民の多くが加入するマネジドケア（P-HMO）の場合自分が加入している保険会社のGPで受診
自己負担	原則無料	20～30%	原則無料	20～30%	保険に入っていないければ、全額。保険料が安いプランは自己負担多いなど、契約内容による
保険の仕組みとフィットネスへの意識	GPの予算が決まっていることで診察を受けられるまでに待たされたり、手術が先延ばしにされることも多い。民間保険の中でもフィットネスをしている人にベネフィットの多いプランに健康な人が集まり、保険会社のビジネスも上手に回っている。	保険料が給与から天引きされ、病院での受診による保険料や自己負担率も変わらないことから、病院に通うことの金銭的痛みが少なく、健康への自己管理意識が低くなりがちで、フィットネスへの参加に必要性を感じにくい。	GPの予算が決まっていることから、GPも人々の健康づくりを支援する情報を提供。GPがフィットネスを処方箋として出せることで、フィットネスへの参加が促されている。	GPの予算が決まっていることから、GPも人々の健康づくりを支援する情報を提供。GPがフィットネスを処方箋として出せることで、フィットネスへの参加が促されている。	民間保険が中心で、保険会社が大きな財源を持ち、その中で負担する医療費を下げようと、加入者にフィットネス行動を支援するインセンティブを積極的に提供。人々も病院にかかる保険料や自己負担が高くなる危機感から自己管理意識が高くなり、フィットネスへの参加率も高い。
フィットネスクラブ市場規模	62億ドル2810万ドル	51億5800万ドル	53億5739万ドル	25億5500万ドル	258億ドル
クラブ数	6,312	5,979	8,332	3,351	36,180
会員数	880万人	416万人	946万人	348万人	5,525万人
総人口	64,716（千人）	126,573（千人）	80,689（千人）	23,969（千人）	321,774（千人）
参加率	7.35%	3.3%	8.52%	6.89%	17.17%
1クラブあたり人口	10,253人	21,169人	9,684人	7,153人	8,894人

©2019 JAPAN FITNESS ASSOCIATION

日本のフィットネストrend

2018-2019

©2019 JAPAN FITNESS ASSOCIATION

日本のフィットネストrend2018-2019



©2019 JAPAN FITNESS ASSOCIATION

日本のフィットネス注目3分野



①運動療法としてのフィットネス

- ・スポーツ医科学の浸透で、ドクターたちが運動療法に着目
- ・リハビリ期間が150日に短縮され、リハビリ難民増→自費診療ニーズ増
- ・高齢者のロコモ予防含む、介護予防のための機能改善ニーズ
- ・整体や治療院も差別化のため運動療法サービスを強化

©2019 JAPAN FITNESS ASSOCIATION

日本のフィットネス注目3分野



②健康経営・働き方改革の働く人のフィットネス

- ・働く人の生産性向上
→腰痛や頭痛、ストレスなどへの対応
→マインドフルネス、腸活
- ・労働人口が今後減る
→高齢労働者の転倒予防・健康維持
→共働き世帯増で女性の健康維持



日本のフィットネス注目3分野

©2019 JAPAN FITNESS ASSOCIATION



③2020前後の国際大会を機にアスリート育成／スポーツ振興にデジタル活用が進む

- ・測定のデジタル化／リアルタイム化でトレーニングプランと成果の可視化からトレーナーの専門性へのニーズ高まる
- ・AIやデジタルの力を借りて、多くの人に同時にパーソナライズした指導が提供できる



©2019 JAPAN FITNESS ASSOCIATION

日本のフィットネス業界で 今後求められる指導者の資質とは

- ①最新のスポーツ医科学に基づき、
安全で痛みが出ない指導が行える
- ②人と人とが繋がれる場をつくれる
コミュニティがつくれる
- ③ICTを活用して、パーソナライズした
サービスと指導を多くの人に提供できる

©2019 JAPAN FITNESS ASSOCIATION

日本のフィットネス業界で 今後求められる指導者の資質とは

社会課題を フィットネスを始める チャンスに変える

インストラクター・トレーナーのキャリアマガジン

NEXT

11
月刊【ネクスト】
2019/November
No.152

人生100年時代の
75+
フィットネス

好評連載 vol.19 2020に向けてトレーナーができること
本橋恵美さん

求人情報 | オープンセッション | 募集 | モニター情報
Webサイト・デジタルブック連携フリーマガジン
[Fitness Business]
www.fitnessjob.jp

求人・養成情報
トレーニング特集

©2019 JAPAN FITNESS ASSOCIATION

次号特集予告

「人生100年時代の 75+フィットネス」

60歳でフィットネスを始め、
75歳以上の今も、フィットネ
スを継続しながら、人生を豊
かに楽しんでいる方々と、
そのインストラクターたちの活
動をご紹介します。

スポーツ・健康ビジネスの
就職ガイド
Recruit Magazine
リクルートマガジン

2021
新卒向け

就職希望者必読
**フィットネス業界を
徹底分析!**

Club Business Japan

©2019 JAPAN FITNESS ASSOCIATION

Fitness Business

スポーツを仕事にしませんか?

フィットネス・スポーツ業界合同
リクルートフェア2021

成長産業として注目を集める
フィットネス・スポーツ業界に特化した、日本最大級の新卒採用イベント。
こんな学生に向いているイベントです。

フィットネス・スポーツ業界に
就職したい!!! トレーナー希望!!!

少し興味があるが、迷っているー

就職活動は来年だけど、興味がある

本日は貴重な機会をいただき
ありがとうございました!

今後とも、貴重なフィットネス指導者の育成を
よろしくお願いいたします!